



まちづくり情報サイト

「街元気」は、まちをもっと元気にしようとかまちづくりに頑張る人を応援します



Tweet



サイトマップ

イベント・メルマガ

研修・オープン会議

学習教材・統計

コラム・事例紹介

タウンプロデューサー

まちづくり掲示板

政策関連情報

このサイトについて

コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 地域×クラウドソーシングの可能性 株式会社クラウドワークス 田中健士郎さん（前編）

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

地域×クラウドソーシングの可能性 株式会社クラウドワークス 田中健士郎さん（前編）

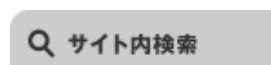
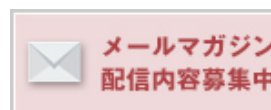
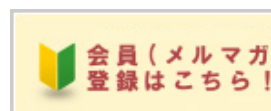


Tweet



日本最大級のクラウドソーシングである「クラウドワークス」。2018年1月現在のユーザー数は179万人、クライアント数は22.5万社に達し、大企業だけでなく中央官庁や80以上の自治体も仕事を発注する仕事をマッチングするプラットフォームとなっています。

最近では、仕事を受発注するプラットフォームだけでなく、実際に地域で拠点を設置し、新しい仕事を



検索

もっと詳しく検索する

創出するという試みを実施されています。

今回は、クラウドワークスの現在の取り組みや課題、今後の展開などについてお伺いしました。

クラウドワークスではどのようなサービスを提供されていますか

クラウドワークスの主要なサービスは、企業や個人事業主の仕事を頼みたい人が、クラウドワーカーと呼ばれる個人に対し、インターネットを通じて仕事を発注できるサービスです。

仕事の種類は多種多様で、テーブル起こしや商品モニターから、映像制作やシステム開発など専門性が要求される仕事まで多岐にわたります。最近では、AI開発に必要なデータ入力や、ウェブライティング（インターネット上の記事の執筆）などの仕事が増えつつあります。その他、アイデアコンペなども行っており、兵庫県加古川市ではゴミ減量に関するアイデアの募集、山梨県河口湖町では空き家活用に関するアイデアの募集を行いました。

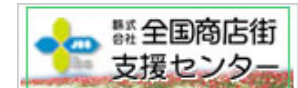
サービスの特徴としては、（１）個人が気軽に会社から仕事を受けられること、（２）仕事の受発注から報酬の支払いまで全てがインターネット上で完結するため、双方が一度も顔を合わせなくても仕事を完了させられることの2点です。

利用する企業やワーカーにはどのようなメリットがあるのですか

利用する企業、ワーカー、それぞれにとってメリットがあります。

まず、利用する企業にとっては、特定のスキルや経験を有する人材を柔軟に調達できる点が最大のメリットです。企業は依頼したい仕事を登録し、短時間で多くの応募を集め、最適な発注先を選ぶことができます。また、分割で発注することもできるため、ワーカーの質を確かめながら仕事を依頼することもできます。さらに、間接コストがかからないため、費用負担の軽減も可能です。その他、アイデアコンペなどは、コンテスト形式で実施しますので、外部専門家の意見を簡単に幅広く取り入れることができ、オープンイノベーションの形態を取ることができます。

一方、仕事を受注するクラウドワーカーにとっては、時間と場所にとらわれない働き方をできる点が最大のメリットです。育児や介護支援をしながら在宅で仕事をしたり、空いた時間に副業をしたり、シニアの方が自分のペースで仕事をしたりと、全国の多様な老若男女の方にご登録を頂いています。ま



た、仕事をした実績が信用となるため、ワーカーの信用を可視化して提供することができます。そのため、実績のあるワーカーは、積極的に案件に応募しなくても、発注する企業から仕事の依頼がある状況となっています。将来的に、このような実績を発注する企業に対して与信情報のように分かりやすい情報で提供し、発注の際の選定が便利になるようにしていきたいと考えています。



地方におけるクラウドソーシング活用の可能性はどのようなところにありますか

企業にとっては、地域産業の振興に繋がると考えられます。昨今、地方は人材不足により、毎回同じ企業に仕事を発注しなくてはならないということが多く、新規性が生まれにくい傾向があります。クラウドソーシングを利用すると、容易に地元以外の企業に発注することができ、さらに複数の企業から提案を受けることができるため、新しい「風」を取り入れることができます。実際に、クラウドワークスでは、約半数の発注が東京以外の企業からの発注となっています。

一方、クラウドワーカーにとっては、働く機会の創出につながる点が大きいと考えています。仕事がないといわれる地方であっても、ワーカーはネットを通じて他地域からの仕事を容易に受注することができることで、仕事の創出につながります。UターンやIターンなど移住者においても、地方で仕事ができるという点で注目を受けています。

また、先ほどもお話ししたとおり、ワーカーは時間と場所にとらわれない新しい働き方ができるため、女性やシニアなど今まで特に地方部で働くことが難しかった人たちにも、気軽に仕事をする機会を提供できるようになりました。ワーカーにとってのメリットが、女性の活躍や在宅ワークの普及、定住者を増やしたいといった自治体のニーズと合致し、平成27年度から23の自治体と一緒にクラウドワーカー育成事業も実施しています。



コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 地域×クラウドソーシングの可能性 株式会社クラウドワークス 田中健士郎さん（前編） - 2 ページ目

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

地域×クラウドソーシングの可能性 株式会社クラウドワークス 田中健士郎さん（前編）

クラウドワーカー育成事業ではどのような取組をされているのですか

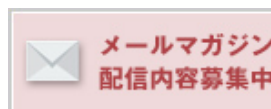
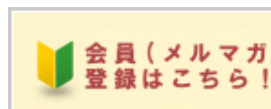
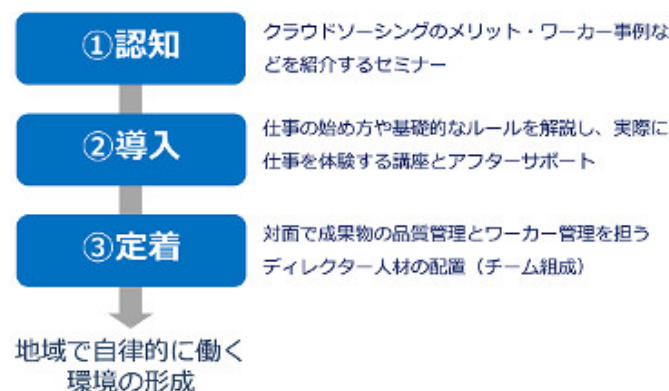
まず、クラウドワーキングに関する啓発セミナーを行いました。ただし、活動内容を知ったところでインターネットを通じて働くということへの不安は拭えませんが、悩みがあっても相談できる人がいないため途中で諦めるという人も散見されました。そこで、実際に地域の中で、クラウドワーキング導入期の対面サポートとコミュニティ形成を行うことにしました。

具体的には「認知」、「導入」、「定着」の3段階に分けて活動を行います。

まず、「認知」では、セミナーを実施し、クラウドワーキングを知っていただきます。

次に、「導入」では、主催者がパソコンを用意し、サポートや講義をしながら数日間実際に仕事に取り組んでいただきます。ただ、仕事を一度してもらっただけでは、継続的に仕事をせず定着しないことが多くなります。

地域でのクラウドワーキング定着に向けたステップ



そこで、「定着」させるための取り組みとして、「クラウドディレクター」を核とした地域ワーキングチーム体制の構築や「コミュニティマネージャー」の配置を行っています。

クラウドディレクターは、企業が発注する金額の一部を報酬として、クラウドソーシングで受注する仕事の受注管理や品質管理とクラウドワーカー育成を現地のワーカーと対面で行います。データ入力やウェブライティングにおいて単発の小規模案

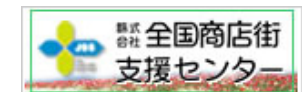
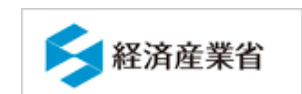
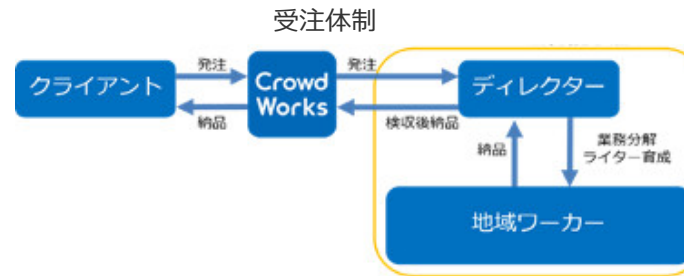
件もありますが、5分で終わる入力作業を何万件行う案件や、何千記事を作成するといった大規模案件もあります。そのような案件を発注する企業としては、ある程度まとめて一括発注をし、一つの窓口で何十人のワーカーのレベルにあった仕事内容や量を配分し管理してもらった方が、利便性が高くなります。さらに、その様な体制を築き品質管理と進捗管理をしっかりと行うことにより、高単価な仕事を受注することもできます。また、クラウドディレクターは進捗管理や品質管理だけでなく、ワーカーの体験講座や添削付のテスト、フィードバックなど現地のクラウドワーカーの育成も担っています。

一方、コミュニティマネージャーは、クラウドディレクターのように仕事の受注管理やワーカーの育成は行いませんが、ワーカー間のコミュニティ形成のサポートを行います。具体的には、コワーキングカフェを定期開催し、ワーカーの交流を促進しながら、ノウハウ共有、モチベーションアップを図ります。コミュニティマネージャーは、クラウドワーカーの中でやる気がある人にやっていただくことが多く、1年目にやる気があった方に、2年目からコミュニティマネージャーをお願いするなどしています。

クラウドディレクターは誰が担っているのですか

地域ワーキングチームは、地方自治体から在宅ワーク支援を受注していた地元のNPO法人や社団法人などが運営を行うことが多くなっています。

例えば、佐賀県多久市では、シェアリングシティ宣言を打ち出しており、市からの支援を得て、佐賀県のNPO法人が「ローカルシェアリングセンター」という組織を運営しています。そこでは、多久市の



ワーカーに対して、クラウドワークスがクラウドワークスを紹介する初回セミナーやクラウドワーキングを始めるための教育を行います。その後のワーカーに対する継続的な育成や品質・進捗管理は、NPO法人で採用したクラウドディレクターが担っています。

このように、ほとんどの拠点はNPO法人等、クラウドワークス以外の地元の団体が運営しています。一部、長野県駒ヶ根市のように総務省のふるさとテレワーク事業の一環で駅前にワークスペースを作り、クラウドワークス自社のクラウドディレクターを配置し、自社運営を行うケースもあります。



1 2 3

関連リンク

株式会社クラウドワークス

地域×クラウドソーシングの可能性 株式会社クラウドワークス（後編）

登録日 2018年3月30日（金曜）00:00

[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）
主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所
Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



まちづくり情報サイト

「街元気」は、まちをもっと元気にしようとまちづくりに頑張る人を応援します



Tweet



サイトマップ

イベント・メルマガ

研修・オープン会議

学習教材・統計

コラム・事例紹介

タウンプロデューサー

まちづくり掲示板

政策関連情報

このサイトについて

コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 地域×クラウドソーシングの可能性 株式会社クラウドワークス 田中健士郎さん（前編） - 3ページ目

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

地域×クラウドソーシングの可能性 株式会社クラウドワークス 田中健士郎さん（前編）

どのような方がワーカーをされているのですか

地域によって異なりますが、ワーカーは主婦が多くなっています。年齢層は、30代から50代、特に40代が多い傾向があります。都市部の方が年齢層は低く、地方は、40代の子育てが一段落した方が中心となります。都市部の場合スキルが高い方が多い反面、フリーランスの方が保育園に子供を預けることが難しい場合も多く、子育て世代女性の在宅ワーカーが増えているようです。

ワーカーはどこで作業を行うのですか

作業場所は、地域によって異なります。

広島県広島市では、地元企業である株式会社 peekabooが内閣府より「企業主導型保育事業」として認定を受けた無料の託児所を併設し、子どもを預けながら働くことができる拠点を市内2か所で運営しています。基本的には拠点で作業が行われています。在宅ワーカーが中心の拠点と比べ、広島市のpeekabooでは常時50名以上のママさんワーカーが働き、高い売上をあげて

ログイン

会員（メルマガ）
登録はこちら！

メールマガジン
配信内容募集中

マチイベ！
-街のイベント-
掲載依頼募集中

サイト内検索

検索

もっと詳しく検索する

います。

その他の地域は、打ち合わせや説明のために集える場所が拠点に設けられていることが多く、そこで作業をすることもできますが、在宅ワークを希望する人が多いというのが実状です。ただ、地方に限ったことではないですが、在宅ワークだと育児や家事の合間に作業を行うため、1日2～3時間を週に4回程度する人が多くなってきました。拠点で作業を行っている広島市のpeekabooでは、1日平均8時間程度作業を行うことが多く、作業場所の差が売上の差につながっています。しかし、自分のペースで作業を行うことをクラウドワーキングのメリットとしている人が多いため、拠点での作業を義務づけることが必ずしも良いとは限りません。

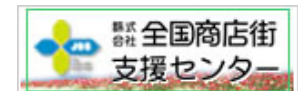


ワーカーからはどのような声が出てきていますか

先ほどお話ししたとおりワーカーは主婦が多いのですが、社会とのつながりを持てたことが喜びとなり、やる気につながるという声をよく聞きます。

また、事務職で働いていた女性が、出産を機に一般の会社を退職するケースがありますが、子育てが一段落した段階で、類似の仕事に戻ろうとしても以前のパフォーマンスを発揮することが難しいことがあります。特に、IT環境が日々変化する昨今は、仕事環境の変化について行けないことが多く、働く側と採用する側の双方にとって不安となり、復職が難しい状況にあります。しかし、再就職前にクラウドワーキングをすることで、同じ仕事で無くとも、PCで作業することが常に最新のITツールに触れる機会となり、お互いの安心材料になり、復職しやすかったという話もあります。また、ITだけで無く、納期の厳守や報連相など仕事の感覚を忘れないというメリットもあります。

社会に接点を持てたり、久しぶりに社会復帰して自分に自信が持てたり、家事が多くても両立できたりとワーカーが感じることは多種多様です。ただ、多くのワーカーが、クラウドワーキングによって生活の充実を感じるようになったと答えています。純粋にお金を稼ぐだけではなく、やり甲斐や生活の充実を重視している方も多いというのが印象です。





関連リンク

株式会社クラウドワークス

地域×クラウドソーシングの可能性 株式会社クラウドワークス（後編）

登録日 2018年3月30日（金曜）00:00

[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）
主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所
Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



まちづくり情報サイト

「街元気」は、まちをもっと元気にしようとまちづくりに頑張る人を応援します



Tweet



サイトマップ

イベント・メルマガ

研修・オープン会議

学習教材・統計

コラム・事例紹介

タウンプロデューサー

まちづくり掲示板

政策関連情報

このサイトについて

コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 地域×クラウドソーシングの可能性 株式会社クラウドワークス 田中健士郎さん（後編）

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

地域×クラウドソーシングの可能性 株式会社クラウドワークス 田中健士郎さん（後編）

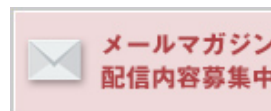
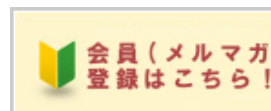


Tweet



日本最大級のクラウドソーシングである「クラウドワークス」。2018年1月現在のユーザー数は179万人、クライアント数は22.5万社に達し、大企業だけでなく中央官庁や80以上の自治体も仕事を発注する仕事をマッチングするプラットフォームとなっています。

最近では、仕事を受発注するプラットフォームだけでなく、実際に地域で拠点を設置し、新しい仕事を



検索

もっと詳しく検索する

創出するという試みを実施されています。
今回は、クラウドワークスの現在の取り組みや課題、今後の展開などについてお伺いしました。

前半では、クラウドワークスの地方における事業内容などをお伺いさせていただきました。後半では、それらの自治体との関わりや今後の事業展開についてお伺いさせていただきます。

自治体は地域の事業にどのような関わりをしているのですか

先程、お話したとおり、地域では、クラウドワーキング導入期の対面サポートとコミュニティ形成を行っており、「認知」、「導入」、「定着」の3段階に分けて活動を行っています。

「認知」、「導入」段階では、活動の開催に関わる経費を自治体に負担していただいています。「定着」段階では、クラウドディレクターが育ち、クラウドワークスを通じて案件を受注できるようになります。ある程度の利益を確保し、事業を運営できるため、自治体の支援が無くても、地域のビジネスとして回していくことができるようになります。

なお、自治体が求めるものは、自治体の規模によって異なります。例えば、100万都市では月100万円の売上があったとしても経済的なインパクトは小さいため、市民に多様な働き方を知ってもらう市民サービスという位置づけになります。一方で小規模な地域では、他の仕事が多くはないため、月100万円の売上であってもその自治体にとっては重要な働き口という位置づけになります。

何をきっかけに、地域と協業することになったのですか

クラウドソーシング事業を始めるにあたって、仕事を提供するのはもちろんのこと、教育と社会保障もあわせて提供していくことがミッションになると考えていました。

ただ当時は、教育に投資できるほどの余裕が無く、日南市から声をかけていただき、クラウドワーキングで月20万円以上を稼げる人を自治体と一緒に育てることにしました。勤務時間の問題などもあり、当初目標にしていた月20万円は難しく、15万円程度にとどまりましたが、育成



したワーカーがクラウドソーシングでの実績を評価され地元のIT企業に採用され、新たな雇用につながるなど事業は成功に終わりました。

日南市の事例がテレビ東京の「ガイアの夜明け」などメディアに取り上げられるようになった頃から、事業が全国各地に広がりました。最近では、各地の自治体から問い合わせが来るようになっています。



宮崎県日南市_油津コワーキングスペース



中心市街地活性化（まちづくり）とはどのような連携がありますか。

クラウドソーシングは個人で働くため、普段家にいる人が多く、コミュニティも多くはありません。今後、クラウドソーシングだけでなく、フリーランスの世界も含めコミュニティを作っていくのが重要になると思います。また、コミュニティを作るためには、それを形成するための場所が必要となります。

先ほど事例としてご紹介した自社で運営している長野県駒ヶ根市では、クラウドワークス自社で駅前にワーカーが自由に使えるワーキングスペースを作り、現在100名近くの市民がクラウドワーカーとして働いています。ただ、スペースを作るだけではワーカーは利用しないため、機密性が高く、そこでしかできない仕事や、クラウドディレクターに相談しながら進める仕事を集約することで、スペースに来る理由を作っています。また、ワーカーには拠点が受注したクラウドワークスの仕事をしてもらうことで拠点の利益に繋がるなるため、ワーカーから利用料を徴



収する必要がありません。そのため、気軽に集まることができ、コミュニティも形成されていきました。結果として、ワーカーである主婦が駅前に出るようになり、明らかに歩行者の流れ、歩行者の質が変わってきています。

プログラミングなど特別なスキルを保有し、十分な収入を稼ぐことができるフリーランスの人であればコワーキングスペースの利用料も大きな負担とはなりません。しかし、特別なスキルのないところから仕事を始め、月数万円程を稼ぐ方たちにとっては、数百円のコーヒー代を払うカフェであっても気軽に利用することは憚られるのではないのでしょうか。

コワーキングスペースの利用料を支払うことができるフリーランスの人が多数いるような30万人程度以上の都市であれば、利用料を利用者から徴収する従来型のコワーキングスペースの運営も成り立つかもしれません。一方、月数万程を稼ぐ主婦の方が中心の利用者となる地方では、その様なコワーキングスペースの運営は難しくなってきます。そのため、一般的なオフィスに近い概念になってしまいますが、駒ヶ根市の拠点のように、利用料はワーカーからは徴収せず、コワーキングスペースの運営者が仕事をワーカーにしてもらうことで運営費を賄うというビジネスモデルは面白いのではないのでしょうか。

月に数十万円を稼げる人は限られますが、クラウドワーキングによって月数万円を稼ぐことができる主婦の方は地方にたくさん増やすことができるため、働いてもらうことによって運営費を賄うコワーキングスペースの可能性は高いと考えます。また、そういったコワーキングスペースはコミュニティ形成にも役立つため、地域の活性化にもつながるのではないのでしょうか。

■ 関連リンク

株式会社クラウドワークス

地域×クラウドソーシングの可能性 株式会社クラウドワークス（前編）

登録日 2018年3月30日（金曜）00:00



コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 地域×クラウドソーシングの可能性 株式会社クラウドワークス 田中健士郎さん（後編） - 2ページ目

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

地域×クラウドソーシングの可能性 株式会社クラウドワークス 田中健士郎さん（後編）

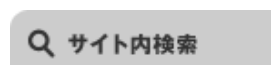
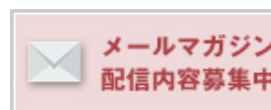
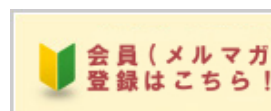
自治体と協業するにあたって課題と感じていることはありますか

自治体の事業として実施する場合、広くワーカーを募集することになるため、特定のスキルを持たない人が多くなってしまいます。そのため、多くの方がスキルなしでも始めやすいライティングとデータ入力が業務のスキルアップを主に提供しています。クラウドソーシングでは、プログラミングやデザインといったスキルを必要とし報酬も高い案件も多くあります。そこで、今後はそのようなスキルを必要とする案件と地方創生を掛け合わせるということもやっていきたいと考えています。自治体の事業としてだけではなく、ビジネスとしてできる方法がないかも検討しています。

AIの発達によりクラウドソーシングが減ることはないのですか

AIの発達によって減る仕事はあると思いますが、新しい仕事も増えてきます。例えば、最近ではAIの開発を目的として大量のデータが必要となり、データ入力や音声入力の仕事が増えています。また、デザインやWEB制作など、AIにはできないクリエイティブなスキルが要求される領域もまだ伸びていく可能性が高いと思います。

さらに最近、経理や人事などはじめとするコーポレート系の業務で、直近にAIに取って代われることはない仕事もあると考えており、それらのサービスを拡充しています。その一つとして、Bizアシスタントオンラインという時給制に限りクライアントやワーカーを募集するサービスを開始しました。



🔍 もっと詳しく検索する

これは、契約関係の法務担当や在宅秘書など、スキルや専門知識があるワーカーを必要としているものの、正社員を雇う予算が取れない企業などが、在宅ワーカーに仕事を時給制でお願いする仕組みです。今までのクラウドソーシングでは、作業の早い人は時給換算すると数千円になる事もありますが、一方で遅い人は時給換算すると安価になることもあります。子育てされている方など時間に縛らずに仕事をしたい方もいらっしゃるので、全てを時給制にシフトすると言うわけではありませんが、今後は時給制の仕組みも増やしていきたいと考えています。

簡単なデータ入力などは、今後案件が無くなる可能性はあります。しかし、それに代わる仕事を我々がしっかりと発掘し、発掘した仕事を企業に発注してもらうというのが、私たちのミッションです。

今後はどのようなことに取り組みたいと考えられていますか

地方の拠点に関しては、事業を連携して推進する自治体や企業を増やしていきたいと考えています。

現在、拠点の仕事はクラウドワークスの本社が営業し、受注したものを割り振っているため、今後拠点を増やしていくと拠点に割り振る仕事不足という問題が発生します。そのため、プラットフォーム上で各地のチームが自立して受注できるというような仕組みを作ることが必要となっています。

その他にも、まだ地域のチームでは対応できていないクリエイティブな領域へも拡大していきたいと考えています。例えば、WEBサイト制作やECサイト構築などの需要はありますが、デザインやコーディング、システム開発などそれらの工程を全て請け負える個人は限られています。そのため現在は、WEB制作会社がコーディングだけをクラウドソーシングで発注するなど、個人に発注するには分割発注をせざるを得ない状況になっています。そこで今後は、ECサイトを構築したいときは、地方のクリエイティブチームが一括で受注し窓口になり、そこから各個人に分業できる仕組みができればと考えています。また、その仕事をする際は各個人がネットで繋がっていれば問題はないので、チームが必ずしも同じ地方にいる必要はありません。

東京のクリエイティブチームは、東京に仕事があるため、困っていないかもしれませんが、一方、地方では地元にお客さんがいないため、そのような仕組みを作ること、市場を拡大する起爆剤のひとつにはなるのではないかと考えており、将来的にビジネスとして確立したいと考えています。





人手不足といわれる中、主婦やシニアなど働きたいけど働く機会がないと感じている方は、まだまだたくさんいらっしゃいます。ただ、そのような方が必ずしもクラウドソーシングのような働き方を認知されているというわけではなく、認知のための活動を進めていくことは、地域での新しい働き方の選択肢を作るうえで有益といえます。また、クラウドワークスの取り組みは、ワーカーとしての働き方を認知してもらうだけで無く、定着までサポートされていることで、地域の潜在的な労働力を具現化し、地域の稼ぐ力を押し上げていくことに大きな意味があるといえます。

また、従来型の利用料で運営するコワーキングスペースではなく、長野県駒ヶ根市のようにクラウドワーキングをしてもらうことで運営費を賄う仕組みは、地方型コワーキングスペースの可能性として面白いのではないのでしょうか。新しい働き方と、地域の可能性を広げている、クラウドワークスの今後の活動に注目です。

関連リンク

株式会社クラウドワークス

地域×クラウドソーシングの可能性 株式会社クラウドワークス（前編）

登録日 2018年3月30日（金曜）00:00